

出題意図および解答例

問 1:「考えること」としての哲学を、筆者はなぜ必要だと考えているのか、本文を踏まえて「対話」「自由」という言葉を必ず用いて、100字以内で説明しなさい。

出題意図

本文の趣旨を踏まえ、適切な情報を選択し、表現できるかを問う。

(例)

この世で生きるうえで必要な、とても大切なものは自由である。しかし、現実の生活の中では自由がほとんど許容されていない。自分自身を含む他者との対話を通してはじめて自由を手にすることができるから。(95字)

問 2:「考えること」を学ぶ機会は、学校においてどのように実現することができるか、自分の体験も含めて、あなたの考えを述べなさい。(600字以上 1000字以内)

出題意図

本文の内容を踏まえ、受験生が自らの考えを論理的に説明できるかを問う。「主体的・対話的で深い学び」を自発的に達成するため、児童生徒一人ひとりが自ら「考えること」ができるよう導くことは、教師、教育の重要な役割である。また、その際も一人だけで「考える」のではなく、他者と「共に問い、考え、語り、聞くこと」である対話を通して、「共に生きていく」という感覚を育むことも、教師に広く求められる資質である。広い視野で教育を理解し、児童生徒に寄り添う姿勢を問うことは発達の援助者であり文化の伝達者である教師という職業、あるいは教育に対する情熱を持った人材を求めるアドミッションポリシーに対応すると考えられる。

評価の観点

- ・学校において「考えること」を学ぶ機会の実現方法と、自分の体験について具体的な記述がなされているか。
- ・「考えること」の本質的な意味がどのように記述されているか。
- ・教育学部 AP (アドミッションポリシー) の観点をもとに評価を行う。